

# 教育経済建設常任委員会行政視察報告書

山本仁美

## ○愛知県岡崎市

### 大河ドラマを契機とした観光振興について

#### 【所見】

愛知県岡崎市は、令和5年1月からスタートしている大河ドラマ「どうする家康」の舞台地となっている。

放送に伴い、岡崎城を中心とした歴史公園である岡崎公園内に大河ドラマ館を設置した。入館者数はわずか9か月間で45万人を超えている。主人公の家康役が人気タレントの松本潤氏であることも相まって経済効果は高く、愛知県では393億円、名古屋市内においては140億円と推測されている。

PR戦略も素晴らしく、大河ドラマ館のオープンの日までにいかに広く宣伝しアピールするかを、放送が始まり「どうする家康」という言葉が巷にあふれだしたタイミングで広範囲に発信し始めた。その後、ターゲット層毎にPRの方法を変え、SNSも使い分け、さらには紙媒体も使い分けた。「松潤」カラーである紫色を基調とすることでSNSでの発信力の強い若者のファン層の心を掴んだ。

オープン後は入館後の半券チケットの有効活用や入館者数の少ない時間帯の打開策としてノベルティ(ステッカー)を配布しており、さらに、時期毎に市民や県民への入館割引なども行っている。また、岡崎市美術館との相互連携も行い、美術館の入館者数のアップにもつなげている。

鉄道のタイアップによりラッピングカーを走らせたり、乗り降り時由な特別な企画切符を発行したり、旅行会社とのタイアップを行うなど、来館の動機付けを大切に考えている。

足利市も平成3年に放送された大河ドラマ「太平記」の舞台地であった。現在、太平記館という観光案内所兼市内のお土産の販売を行っている施設はあるが、「太平記館」という名称に期待を持って訪れる観光客にとっては少し物足りない施設といえる。「足利氏のふるさと」ツーリズム観光誘客促進事業を展開するにあたり、太平記館の魅力アップやPR、有料観光施設である史跡足利学校や美術館との連携、更には街中を走るあしバスアッシーを有効的に活用し、歴史と文化の街に相応しい目を引くラッピングやカラーに大幅にイメージチェンジするのも策かと思われる。SNSでの発信力、波及力は低予算で大きな効

果を得られるため、それらのツールを効果的に利用し足利市を多くの人々に知っていただくことが経済効果につながると思われる。

## ○愛知県瀬戸市

### 小中一貫校について

#### 【所見】

愛知県瀬戸市は人口約12万8千人の街である。市全体として小中一貫校を推進し、義務教育9年間を見通した学習指導を行っている。少子化に伴い平成26年頃から小中学校の統廃合への取組がスタートし、基本構想は平成28年に策定された。

今回詳しくお話を伺った瀬戸市立にじの丘学園は、瀬戸市小中学校PTA連絡協議会が要望書を提出してからわずか6年で開校するというスピード感を重視した取組で、新校舎を建設し、小学校5校、中学校2校を統廃合した施設一体型の小中一貫校を令和2年4月にスタートさせた。

地域の方々の理解を得るために、説明会はもとより、他校への視察や通学路安全プログラム、コミュニティスクール設置委員会なども作った(不安→理解→協力)。

新校舎の建設場所は7つの学校の間地点付近とし、建設費用は解体・造成費等込みで約63億円であった。

通学方法は徒歩又は路線バスである。路線バスを利用する生徒には、市からの補助も入れながら、年間6,000円を負担していただいている。

児童生徒数は開校当初は835名であったが、現在では1,100名にまで増加している。

校舎はもともと都市公園であった場所であるため、敷地面積は約82.300㎡と大変広大な場所に建てられている。校舎も愛知県の木材を豊富に使用し、温もり豊かな明るい造りとなっており、単学級の時には得られなかった子供たち同士の学びは大きな笑顔に繋がっているといえる。

瀬戸市では協働型課題解決能力の育成に力を入れ、9年間の切れ目ない教育を推進している。教職員も学校内において小中の垣根なく乗り入れ可能としていることで、児童生徒はより深い学びを習得する機会が増え、また教職員の連携・協働にも重点を置いている。

本市においても、昨今の急速な少子化による学校問題は、大きなターニングポイントを迎えている。単学級や複式学級による弊害も出てきている中で、や

はり統廃合は避けられない問題といえる。とはいえ、路線バスが充実していない本市においては、通学問題が大きな課題ではないだろうか。今後は、統廃合も視野に入れたバスのダイヤ改正や路線変更も必要と思われる。また、教職員のなり手不足や業務増加、校舎の老朽化も鑑みると、施設一体型が望ましいと思える。

日本最古の学校・史跡足利学校がある街として相応しい本市独自の学びや施設にすることで、にじの丘学園の生徒数が増加しているように、他県・他市からの流入も見込めるとと思われる。